

JIS

日本語文書交換用ファイル仕様 (幾何学図形)

JIS X 4003⁻¹⁹⁸⁹

(1994 確認)

(2004 確認)

平成元年 3 月 1 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

主務大臣：通商産業大臣 制定：平成元.3.1

官報公示：平成元.3.3

原案作成協力者：社団法人 日本電子工業振興協会

審議部会：日本工業標準調査会 情報部会（部会長 高橋 茂）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部電気・情報規格課（〒100 東京都千代田区霞が関1丁目3-1）へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
1. 適用範囲	1
2. 用語の意味	1
3. 日本語文書交換用拡張ファイル（幾何学図形）の構成	4
3.1 文書ファイル	4
3.2 文書見出し部	5
3.3 文書データ部	5
4. 文書見出し部	8
4.1 文書見出し部の構成	8
4.2 領域定義ラベル	8
4.3 文書見出しラベル	8
5. 文書データ部	11
5.1 文書データ部の構成	11
5.2 文書書式情報	11
6. テキスト	12
6.1 テキストの構成	12
6.2 図形文字	12
6.3 制御機能	13
6.3.1 制御機能の種類及び表現	13
6.3.2 制御機能の機能	16
6.3.3 制御機能の表現	19
6.4 制御機能の基本状態	21
7. ブロックデータ部	21
7.1 ブロックデータ部の構成	21
7.2 文書中のブロックとの対応づけ	21
7.3 文書中のブロック及びテキストの位置付け	22
7.4 ブロック書式情報	22
8. 幾何学図形データ	23
8.1 幾何学図形データの構成	23
8.2 幾何学図形属性	23
8.2.1 形式属性	23
8.2.2 既定値属性	25
8.3 幾何学図形データ列	28
8.3.1 幾何学図形データ列の構成	28
8.3.2 演算コード	29
8.3.3 パラメタ	29
8.4 幾何学図形の表現	32

8.4.1	ブロック領域内での表示	32
8.4.2	図形要素	32
8.4.3	属性要素	36
8.4.4	図形要素と属性要素の組合せ	41
附属書 1	システムラベル	44
附属書 2	文書書式情報の省略	46
附属書 3	ページ書式	47
附属書 4	幾何学図形の表現	48
1.	幾何学図形の位置決め	48
1.1	幾何学図形領域	48
1.2	幾何学図形の写像	48
2.	図形の表現	49
附属書 5	幾何学図形データ記述規約	60
1.	幾何学図形データ列	60
2.	演算コード	60
3.	パラメタ列	60
4.	パラメタ	60
4.1	一般規則	60
4.2	整数値	60
4.3	ビット列	61
4.4	実数(R)	61
4.5	座標(P)	61
4.6	座標並び (nP)	62
4.7	色指標並び (nCI)	62
4.7.1	一般規則	62
4.7.2	通常形式	62
4.7.3	圧縮形式	62
4.7.4	通常繰返し形式	62
4.7.5	圧縮・繰返し形式	62
4.8	直接色指定値並び (nCD)	63
4.8.1	一般規則	63
4.8.2	直接色指定値のビット列	63
4.8.3	通常形式	64
4.8.4	圧縮形式	64
4.9	図形の文字列(S)	64
4.10	データレコード(D)	64

	ページ
附属書 6 数値データの表現形式	65
1. 数値表現第 1 形式	65
1.1 一般形式	65
1.2 表現例	65
1.3 意味	65
2. 数値表現第 2 形式	66
2.1 一般形式	66
2.2 表現例	66
2.3 意味	66
引用規格及び関連規格	67
解説	69

白
紙

日本語文書交換用ファイル仕様 X 4003-1989 (幾何学図形)

File Specification for Japanese Documents Interchange (Geometric Graphics)

1. 適用範囲 この規格は、日本語ワードプロセッサ又はこれと同等の機能をもつ情報処理機器相互間でフレキシブルディスクカートリッジを用いて、文字及び幾何学図形を基本とする日本語文書の交換を行う場合の文書ファイルの仕様について規定する。

この規格は、次の内容を規定する。

- (1) 文書ファイルの構成
- (2) 文書ファイルを構成する情報の種類及び形式
- (3) 使用する文字符号(図形文字, 制御文字)の種類及び機能
- (4) ブロックデータの構成
- (5) 幾何学図形の表現及び記述情報の格納形式

2. 用語の意味 この規格で用いる主な用語の意味は、情報処理用語に関する日本工業規格によるほか、次のとおりとする。

- (1) **文書** 人間が理解できるように2次元形式で表現される情報であって、例えば用紙上に印字又は画面上に表示されるもの。この規格においては、文書は1ページ以上からなり、文書作成時の書式の初期値を定義する文書書式情報をもつ。
- (2) **文書ファイル** 日本語文書の交換の対象となる一つ以上の文書からなるファイル。文書ファイルは、文書見出し部と文書データ部からなる。一つの文書は、文書見出し部中の文書見出し情報と文書データ部中の文書実体との対として媒体上に格納する。
- (3) **ファイル** 一つの単位として取り扱われる関連したレコードの列。ファイルは、一つのボリュームの全体若しくは一部、又は二つ以上のボリュームにまたがって格納することができる。
- (4) **ボリューム** 取付け、取外しのできるデータ媒体の物理的単位。この規格においては、フレキシブルディスクカートリッジがこれに相当する。一つのボリュームには、一つ以上のファイルを格納することができる。
- (5) **レコード** 媒体上での格納及び読出しの単位となる連続したデータの集合。この規格においては、256バイトの長さとする。
- (6) **エクステント** 連続した昇順のアドレスをもつレコードの列。
- (7) **システムラベル** JIS X 0603 (情報交換用フレキシブルディスクカートリッジのラベルとファイル構成)によって規定されているボリューム見出しラベル、ファイル見出しラベルなどの集まり。
- (8) **文書見出し情報** 文書ファイルに格納される文書実体に先立って置かれる情報であって、各文書を識別し、その記憶場所、文書の属性などを表すもの。
- (9) **文書交換水準** 交換する文書中に含まれる図形用のブロックのありなし、取り扱う制御文字の種類などによって区分した文書的水準。

引用規格及び関連規格：67ページに示す。